

INTERVIEW

From JPMA

新委員長に聞く 共創で切り拓く、製薬産業の未来

製薬産業を取り巻く環境が急速に変化するなか、2026年度より各委員会に新たなリーダーたちが就任しました。規制の高度化、デジタル技術の進展、そして医療財政をめぐる複雑な課題—こうした状況のなかで、製薬協は「共創 (Co-creation)」をキーワードに、委員会の枠を越えた連携と価値創出を目指しています。本特集では、6名の新委員長に、それぞれの委員会が抱える課題と今後の目標、委員長としての抱負、そして他委員会へのメッセージをお聞きました。

医薬品の研究開発から流通・品質・患者アクセスまで、多様な専門領域を担うリーダーたちの言葉から、製薬産業の未来を切り拓く「共創」の力強い息吹を感じていただければ幸いです。



WITH THE NEW CHAIRPERSON



武田薬品工業株式会社
ジャパンファーマビジネスユニット
産業政策委員会
医療政策・マーケットアクセス統括部
リード
草開 義隆さん KUSABIRAKI YOSHITAKA

1993年武田薬品工業株式会社入社。名古屋地区でMRとして大学病院を中心に10年間担当。2003年より医療経済研究機構へ出向。2007年業務統括部に帰任し、製薬協等の業界団体・政策渉外活動に従事。2013年グローバルファイナンスを経て、2017年より医療政策・マーケットアクセス統括部にて薬価制度改革を含む政策渉外に従事。2026年4月より産業政策委員会委員長に就任。

“ 実効性ある提言につながる土台づくりを重視し、 製薬産業の価値を社会によりわかりやすく発信していく ”

Q1. 貴委員会における課題や今後の目標を教えてください。

A1 エビデンスや論点を磨き、 産業ビジョン2035の実現を支える

製薬産業は、医療財政の制約や国際競争の激化など大きな変化の中にあります。特に、創薬基盤の維持強化と患者アクセスの両立、国際競争力の確保は重要な課題です。当委員会では、薬価・費用対効果評価制度や創薬環境、税制、感染症対策など幅広いテーマについて、専門的な視点からエビデンスと論点を整理・深化し、実効性ある提言の基盤づくりに取り組みます。多様な知見を結集しながら、「製薬協 産業ビジョン2035」が目指すイノベーションが躍動する国の実現に貢献してまいります。

Q2. 委員長としての今後の抱負をお聞かせください。

A2 実効性ある提言の土台を築く

重視するのは「実効性ある提言につながる土台づくり」です。現場と国際的な視点の双方を踏まえ、既存の枠組みにとらわれず、データに基づく分析と論点整理を進め、製薬協としての発信や政策提言につながる質の高い提案を構築していきます。また、委員会メンバーの知見を最大限に活かしながら、タイムリーかつ実効性のある提言につなげていきたいと考えています。さらに、他委員会や事業戦略本部との緊密な連携を通じて、産業全体として一貫性のある提言の実現に貢献してまいります。

Q3. 共創にむけて他委員会へのメッセージをお聞かせください。

A3 委員会横断で産業の価値を 社会へ発信する

製薬協の強みは多様な専門性の結集にあります。産業政策委員会としても、各委員会の知見を踏まえた横断的な議論を通じ、提案の質を高めていきたいと考えています。共創は、議論の統合だけでなくアウトプットの一体化につながってこそ意味があります。制度や環境の整備には、さまざまな視点からの課題認識と、それらを一つの声として束ねていく力が不可欠です。各委員会の議論から学びつつ、産業全体のビジョンを形にする役割を果たしていきたいと思います。また、皆さんと連携しながらエビデンスと論点をさらに磨き上げ、実効性のある提言へとつなげてまいります。そして、イノベーションが患者さんの健康と社会のウェルビーイングの向上、さらには日本の持続的な成長にどのように貢献するのか、その意義や価値を社会にわかりやすく発信していきたいと考えています。

座右の銘

志は高く、行動は着実に。

不確実な時代だからこそ、大局を見失わず、広い視野と冷静な判断を持ちながら、前向きに一步ずつ進むことを心がけています。

“ 「必要な医薬品を、必要なときに届け続ける」その使命の重さを胸に、医薬品流通を次の時代へと進化させていく ”

Q1. 貴委員会における課題や今後の目標を教えてください。

A1 持続可能な医薬品流通を実現する

当委員会は、メーカーから医療機関・調剤薬局へとくすりが届くまでの流通を、より効率的で質の高いものにしていく役割を担っています。近年は、毎年の薬価改定に加え、原材料費・人件費・配送費の上昇などが重なり、これまでの流通の仕組みだけでは支えきれない場面も見え始めています。だからこそ、変化を待つのではなく、課題が大きくなる前に関係する皆さまと一緒に一つひとつ手を打っていきたいと考えています。品質の確保や安定供給、物流の効率化を大切にしながら、協働を通じて、これからも安心してくすりを届けられる持続可能な流通の実現を目指してまいります。

Q2. 委員長としての今後の抱負をお聞かせください。

A2 必要な医薬品を、必要なときに届け続ける

「必要な医薬品を、必要なときに届け続ける」という流通の使命の重さを、日々感じています。何より大切にしたいのは、この“届く”を守り続けることです。そのために、重要かつ緊急性の高い課題を中心に、業界として声を上げる政策提言の強化や、急速に発展し続けるデータ・デジタルの力を取り入れた医療DXの推進などに取り組んでまいります。難しいテーマも少なくありませんが、委員会のメンバーや関係する皆さまとの対話を重ねながら、一つひとつ前へ進めていきたいと考えています。医薬品流通を次の時代へと進化させ、人々の

健康な暮らしに貢献できるよう、誠実に努めてまいります。

Q3. 共創にむけて他委員会へのメッセージをお聞かせください。

A3 流通の未来は、委員会を越えた共創から生まれる

流通は、くすりが患者さんのもとへ確実に届くまでを支える、医薬品事業の土台ともいえる領域です。その過程は、薬価や制度、品質、プロモーション、デジタルなど、各委員会の取り組みと深くつながっており、流通の課題を流通だけで解決することはできません。製薬協が掲げる「共創(Co-creation)」のとおり、会社や委員会の枠を越えて知恵と視点を持ち寄ることで、一つの委員会だけでは生み出せない新たな価値が生まれると信じています。皆さんの専門性をぜひお借りしながら、私たちの知見もお役立ていただきたいと思います。立場や領域を越えて手を取り合い、業界全体で持続可能な医薬品の未来をともに創っていただけたら嬉しく思います。

座右の銘

本質を守り、未来を変える
(Preserve the core. Shape the future.)

変化の時代だからこそ、患者さんへの価値と信頼という本質を守りながら、より良い未来の実現に挑戦し続けたいと考えています。

流通適正化委員会

荒井 健一さん

武田薬品工業株式会社
流通・地域アクセス統括部長
ARAI KENICHI

1994年武田薬品工業株式会社入社。人事部でキャリアをスタートし、MRや流通部門、社長室・経営企画などを歴任。2019年に中日本流通政策部長、2022年に東京リージョンヘッドを務め、2025年より流通・地域アクセス統括部長に就任。2026年4月より流通適正化委員会委員長に就任。



医薬品評価委員会

北川 峰丈さん

アステラス製薬株式会社
薬事&ファーマコヴィジランス
部長
KITAGAWA MINETAKE

1994年山之内製薬株式会社入社(現アステラス製薬株式会社)。研究、臨床開発、プロジェクト推進を経て、欧州・米国でグローバル開発マネジメントに8年間従事。帰国後は開発プロジェクト推進部グローバルヘッドを務め、2025年より薬事・ファーマコヴィジランス部長。2026年4月より医薬品評価委員会委員長に就任。

“ 患民産学官が連携した創薬・治験エコシステムの強化が、 ドラッグ・ラグ/ロスの解消とイノベーション創出への近道 ”

Q1.貴委員会における課題や今後の目標を教えてください。

A1

新体制で創薬・治験環境の 変革を加速する

我々を取り巻く環境は、規制の高度化やデジタル技術の進展により大きく変化しており、従来以上に迅速かつ柔軟な対応が求められています。こうした背景から2026年度より体制を見直し、製薬協の産業ビジョン・政策提言との連動を意識した成果創出を担うタスクフォース(TF)と、課題探索・人材育成・知の蓄積を担う専門チーム(ET)に再編しました。あわせて、Project Management Office等の運営チームを設置し、活動の透明性と生産性を高めてまいります。2026年度は新体制の定着を図りつつ、臨床試験環境、患者市民参画、医療DX、非臨床評価、安全性監視の5領域に重点を置いた活動を進めてまいります。

Q2.委員長としての今後の抱負をお聞かせください。

A2

患民産学官で 創薬エコシステムを強化する

ドラッグ・ラグ/ロスの解消や創薬力の強化、イノベーションを継続的に生み出す開発環境の整備は、我が国の製薬産業にとって重要な課題です。その解決には患民産学官が連携した創薬・治験エコシステムの強化が不可欠であり、医薬品評価委員会としてもその中核的な役割を果たしていきたいと考えています。新体制のもと、TFによる迅速な課題解決とETによる知の蓄積と人材育成を進め

つつ、得られた知見や提言を社会に発信し、創薬基盤の競争力向上に貢献していきたいと思います。

Q3. 共創にむけて他委員会へのメッセージをお聞かせください。

A3

専門性をつなぎ、 価値共創の橋渡し役となる

医薬品を取り巻く課題は、さまざまな立場や専門性を持つ関係者が知見を持ち寄り、対話を重ねながら取り組むことが重要です。製薬協においても、委員会の枠を越えた連携を通じ、新たな価値を生み出していくことが期待されていると思います。医薬品評価委員会としても、創薬・臨床・安全性といった専門領域の知見を基盤に他委員会や外部ステークホルダーとの橋渡し役を担い、共創の取り組みに貢献していきます。今後、他委員会の皆さんともより密に連携しながら価値の共創を進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

==== 座右の銘 =====

人を活かし、人をつなぐことが、
未来を変える力

患者さんに価値を届けるためには、立場や専門性を越えた協働が不可欠。人を活かし、つなぎ、ともに新たな価値創造に挑戦することが、未来を変える最も大きな力だと信じています。

“ 品質は製薬活動の基盤。多様な意見を尊重しながら、 共通課題への対応力を高めるリーダーシップを発揮していく ”

Q1. 貴委員会における課題や今後の目標を教えてください。

A1 品質課題に迅速に 대응 仕組みをつくる

当委員会の課題は、科学・技術・規制の変化が加速する環境下で、モダリティ横断の品質課題を網羅的かつ戦略的に捉え、解決策やリスク低減策を迅速に確立できる体制や仕組みを整えることと考えています。医薬品規制調和国際会議（ICH）等の国際動向や最新の科学的知見の獲得と実装、DXを活用した効率的で効果的な適正品質へのベストプラクティス開発と共有、それを支える人材の育成が重要なテーマです。医薬品供給の確保、医療の向上および製薬産業の健全な発展に継続的に貢献してまいります。

Q2. 委員長としての今後の抱負をお聞かせください。

A2 品質を支える実効性ある委員会へ

委員長としては、委員会活動を実効性のあるものとし、現場に還元できる成果創出に尽力します。規制当局や関係団体との建設的な対話を通じて、委員会活動やその成果物である業界・規制当局への提言についての理解を広めつつ、当委員会のプレゼンスと業界団体としての信頼性向上に貢献したいと考えています。多様な意見を尊重しつつ、共通課題への対応力を高めるリーダーシップを発揮していきたいと考えています。また、国際的な品質基準の変化を見据えながら、委員会としての発信力を一層強化し、日本の製

薬産業の品質水準向上に貢献してまいります。

Q3. 共創にむけて他委員会へのメッセージをお聞かせください。

A3 品質を軸に、 業界全体で価値を創出する

品質は研究開発から製品の供給に至るまで幅広く製薬活動を支える基盤であり、委員会間の連携や協力による課題への組織横断的な対応なくして価値創出は実現できません。製薬協全体で一体的に価値を創出し、患者さんをはじめとするさまざまなステークホルダーから信頼される医薬品の提供を継続的に実現してまいりたいと考えています。各委員会とは相互の専門性を尊重しつつ、知見・データ・課題認識を共有し、「共創（Co-creation）」により各種品質課題に対する新たな解決策を生み出し、製薬業界に広く展開・実装することに向け、ともに取り組めたらと考えています。よろしくお願いいたします。

座右の銘

転石苔むさず

世の中は常に変化しており、慣れや惰性に流されず、変化を受け入れながら自分自身を更新し続けたいため『転石苔むさず』を座右の銘にしています。米英で解釈が違うのも面白く気に入っています。

エーザイ株式会社
日本リージョナルクオリティヘッド
理事職
品質委員会
品質保証責任者
OKADA EIJI

岡田 英二さん

1992年エーザイ株式会社入社。国内製剤工場で分析技術者、製造技術者を経て、米国および英国の自社製剤工場でテクノロジー&ビジネスコーディネーションに従事。2015年から国内製剤工場で品質保証業務に携わり、2025年より本社にて品質保証責任者（現職）を務めつつ品質委員会副委員長として製薬協に携わる。2026年4月より品質委員会委員長に就任。

“ 患者団体との協働を起点に、新たな価値創出へ 多様なステークホルダーとの共創による課題解決を目指す ”

Q1. 貴委員会における課題や今後の目標を教えてください。

A1 患者団体との協働を実装フェーズへ

患者・市民参画(PPI/E)や患者団体との協働の重要性は、業界全体で広く認識されてきています。一方で、当委員会が2026年3月に実施したPPI/Eに関する各社アンケートからは、協働プロセスの標準化、目的意識やマインドセットの醸成、COI管理・対応など、各社共通の課題があることが明らかになりました。こうした課題の解決に取り組み、患者団体とのよりよい連携・協働の環境整備を進めたいと思います。また、患者団体のみならずアカデミアや行政も含むさまざまな立場の方々との対話の場を提供し、多様なステークホルダーとの共創による具体的アウトプットの創出につなげていきたいと考えています。

Q2. 委員長としての今後の抱負をお聞かせください。

A2 「四つの笑顔」が 生まれる共創を目指す

当委員会は、「四つの笑顔(win)」が生まれる場にしていきたいと考えています。四つとは、①委員および個社、②製薬協内の仲間や関係者、③患者さんやご家族、④アカデミアや行政等の多様なステークホルダーです。それぞれの視点を適切に捉えながら、丁寧な対話と検討を重ね、winにつながる活動を目指します。当委員会だからこそできる取り組みや発信にこだわり、新たな価値創出を図ってまいります。

Q3. 共創にむけて他委員会へのメッセージをお聞かせください。

A3 患者視点の連携から 課題解決を推進する

当委員会は、患者団体に最も近い立場でその実態やニーズを把握している委員会として、患者団体と製薬協との相互理解を深めるとともに、他委員会との連携を通じて共創(Co-creation)による課題解決を推進する役割を担っています。患者団体の視点やニーズを各委員会の議論につなげる役割を果たすとともに、マルチステークホルダーとの具体的な解決の動きが着実に進むよう、製薬協内で各専門領域を担う委員会の皆さんと密に連携して取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

座右の銘

挑戦なくして成長なし

これまでさまざまな課題に自ら限界を設けず挑み続けることで、新たな道を切り拓いてくることができました。この挑戦の積み重ねが着実な課題解決への一歩となり、自身と組織の成長にもつながると信じています。



中外製薬株式会社
渉外調査部

患者団体連携推進委員会 主席部員(パブリックアフェアーズ担当)

副部長

竹内 沙紀さん

TAKEUCHI SAKI

2005年中外製薬株式会社入社。営業部門を経て、2014年より(一社)中外Oncology学術振興会議へ出向し患者団体支援に従事。2020年渉外調査部パブリックアフェアーズグループへ異動し、患者団体との協働(PHARMONY活動)推進、およびマルチステークホルダーとの共創で社会課題解決を目指す活動をけん引。製薬協では2020年より患者団体連携推進委員会に所属し、2022年より副委員長、2026年5月より委員長就任。

“ 環境課題はすべての活動に関係している。業界としての大きな枠組みで、具体的な取り組みにつなげていく ”

Q1.貴委員会における課題や今後の目標を教えてください。

A1 サプライチェーン全体で環境課題に挑む

当検討会では、医薬品業界として地球環境保護に関連する諸問題について、製薬協としての意見集約と施策の検討を行っています。現在は、カーボンニュートラルへの貢献、循環型社会形成への貢献、その他地球環境保護に関連する諸問題に関する認識向上に重点的に取り組んでいます。カーボンニュートラルに関しては、温室効果ガス排出量の約9割を占めるサプライチェーンの脱炭素に向け、昨年度、製薬業界共通のScope3算定・1次データ取得のルールやエンゲージメント方針のガイドラインを策定・公表しました。このガイドラインを会員会社に展開するとともに、サプライヤー等との対話を通じ、バリューチェーン全体での排出削減を加速していきたいと考えています。循環型社会形成に関しては、再資源化率の向上を目指し取り組み事例の共有を進めます。また製薬業界特有の廃棄物(PTPシート等)のリサイクル率向上に向け、廃棄物処理業者団体との意見交換や、大学・NPOと連携したりサイクル品の用途開発についても情報収集を開始する予定です。

Q2.委員長としての今後の抱負をお聞かせください。

A2 業界全体で環境課題への取り組みを加速する

環境問題といったグローバルな社会課題では、個社として

の取り組みのみならず、業界といったより大きな枠組みでの取り組みが重要です。製薬企業に限らず、環境対策に取り組む企業との意見交換なども行い、業界としての推進力アップにつなげるために何をすべきか、環境問題検討会メンバーと議論を深め、具体的な取り組みにつなげていきたいと考えています。

Q3. 共創にむけて他委員会へのメッセージをお聞かせください。

A3 環境課題はすべての活動をつなぐテーマ

環境課題は、医薬品を安定的に生産・供給していくうえで、すべての活動に関係しています。他委員会とも、これからさまざまな視点から意見交換・連携させていただき、製薬協としての社会課題への対応を推進・深化することができればと思っています。

座右の銘

衆知を集める

難しい課題に直面したときにも、あきらめずにじっくり考え、仲間と建設的な議論を行うことで必ず解決策が見つけれられると信じて取り組むことにしています。



アステラス製薬株式会社
サステナビリティ部
環境問題検討会
環境・安全衛生&サステナビリティグループ
課長
清原 宏さん
KIYOHARA HIROSHI

2008年アステラス製薬株式会社入社。創薬研究部門の一員としてキャリアをスタート。2019年から本社の環境マネジメントを統括する部門に所属。2026年5月より環境問題検討会委員長に就任。